

## V 和牛の輸出動向等について

- 1 和牛の輸出動向
- 2 和牛の輸出における冷蔵品と冷凍品の価格差について
- 3 和牛の輸出におけるロイン系の割合

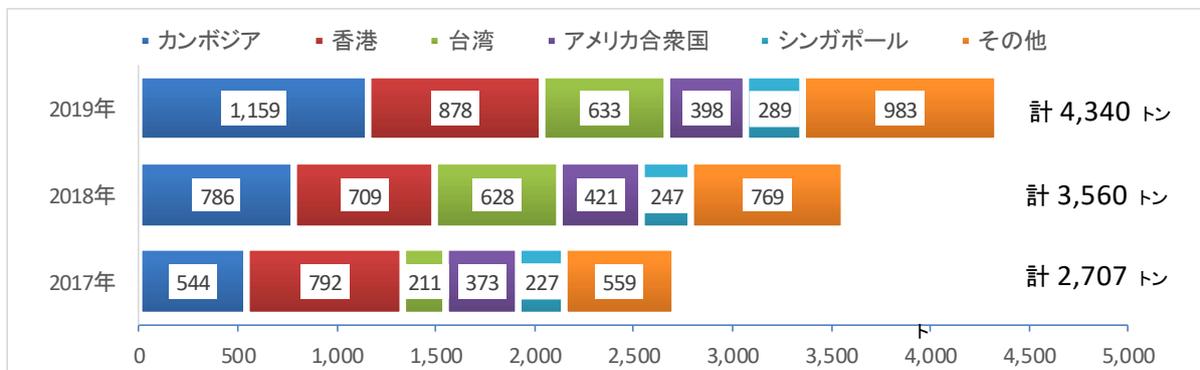
ここでは、和牛の輸出動向について、財務省「貿易統計」を中心にみることにする。なお、牛肉の輸出数量は、全量を和牛と仮定したものである。

## 1 和牛の輸出動向

和牛の輸出量（冷蔵品及び冷凍品の合計）は、2019年が4,340トンで対前年比21.9%増加し、前年に引き続き、大幅な増加となっている。国別にみると、東アジアのカンボジア、香港、台湾の3カ国で半数を超えている。なお、2019年の牛肉全体の最大の輸出先であるカンボジアは、冷凍品だけの輸出で、ロイン系の割合が85%を占めている。

冷蔵品の輸出先は、台湾、香港、米国、シンガポールの順で数量が多く、輸送日数が短いこれらの国・地域は航空便で輸送する欧州である。冷蔵品の品質保持期限を延長することが輸出増加のための課題である。

図1 牛肉の国別輸出量の推移



資料：財務省「貿易統計」

表1 牛肉の国別輸出量と単価

2019年	輸出量			単価(FOB)			輸出量			単価(FOB)	
	冷蔵計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷蔵計 円/kg		冷凍計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷凍計 円/kg
計	2,066	1,112	953	8,576	6,800	計	2,274	1,552	722	7,878	6,873
台湾	547	166	380	7,706	5,725	カンボジア	1,158	986	173	7,850	7,486
香港	515	222	293	7,654	5,844	香港	363	158	206	7,134	5,688
アメリカ	344	306	38	8,471	8,024	タイ	223	105	118	7,757	6,037
シンガポール	223	128	95	7,780	6,149	台湾	86	49	37	7,642	6,420
イギリス	64	59	5	9,646	9,391	マカオ	69	56	13	9,519	8,692
2018年	輸出量			単価(FOB)			輸出量			単価(FOB)	
	冷蔵計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷蔵計 円/kg		冷凍計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷凍計 円/kg
計	1,910	958	952	8,816	7,048	計	1,650	1,062	588	7,822	6,830
台湾	563	161	402	8,444	6,459	カンボジア	786	608	179	7,604	7,166
香港	448	189	259	7,683	5,874	香港	260	119	141	7,336	5,758
アメリカ	333	263	70	8,882	8,234	タイ	167	68	99	7,684	5,881
シンガポール	212	115	98	8,353	6,557	アメリカ	88	52	36	8,922	6,422
オランダ	56	41	15	11,637	10,193	台湾	65	35	30	7,821	6,603
2017年	輸出量			単価(FOB)			輸出量			単価(FOB)	
	冷蔵計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷蔵計 円/kg		冷凍計 トン	ロイン トン	ロイン 以外 トン	ロイン 円/kg	冷凍計 円/kg
計	1,336	734	602	8,866	7,196	計	1,370	1,002	368	7,701	6,963
香港	430	188	241	7,795	5,900	カンボジア	544	474	70	7,694	7,536
アメリカ	285	225	60	9,058	8,368	香港	362	243	119	7,145	6,334
台湾	192	53	139	8,844	6,428	タイ	118	62	56	7,894	6,227
シンガポール	165	95	71	8,320	6,740	アメリカ	88	69	19	7,946	7,158
オランダ	47	36	11	11,569	10,541	シンガポール	62	21	40	6,130	3,828

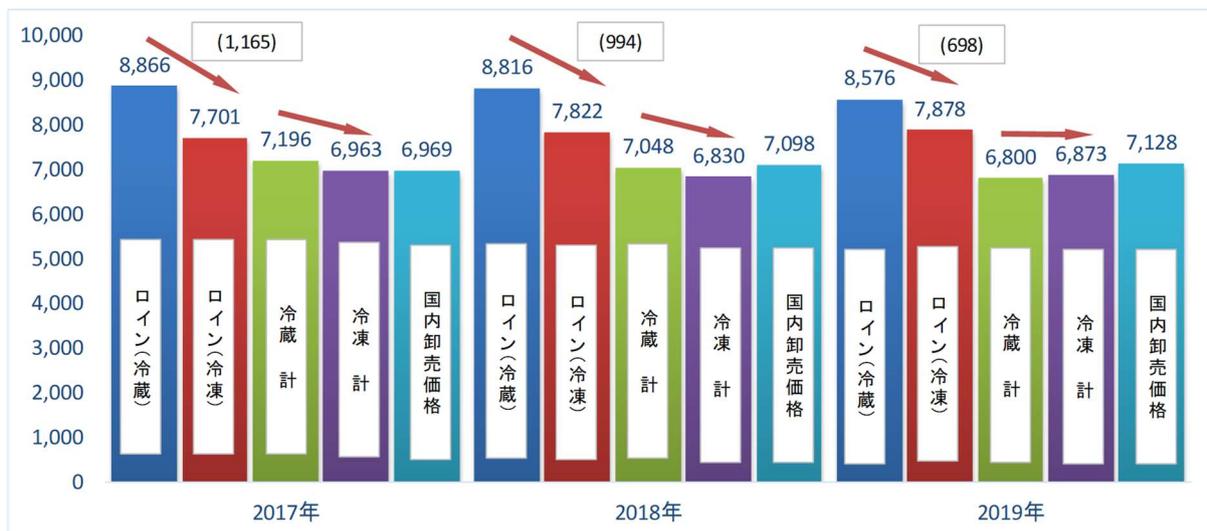
資料：財務省「貿易統計」

## 2 和牛の輸出における冷蔵品と冷凍品の価格差

財務省の貿易統計で、直近3年（2017年～2019年）の年次別の牛肉の輸出単価の推移をキログラムあたりで見ると、冷蔵品全体と冷凍品全体の価格差は大きくない。冷凍品で高額な部位であるロイン系部位の割合が多いことが一因と考えられる。その価格差は、直近3年間では、年々、縮小している。また、輸出数量及び金額の最も多いロイン系部位の輸出単価は、冷蔵品のキログラムあたり単価の方が冷凍品より1,000円から700円程度高いが、3年間で価格差は縮小している。一方、国内の和牛「4」規格のロインセット価格に比べて、冷蔵品ロインの輸出単価は2割以上高い。和牛「5」規格や神戸牛などの銘柄が冷蔵品として輸出されているためと考えられる。なお、冷蔵品の輸出価格が低下してきたのは、国内卸売価格が上昇してきたなかで、「5」規格等の高額なものの輸出の割合が減少しているためかもしれない。

図2 和牛の輸出における冷蔵品と冷凍品の価格差

単位：円/kg



資料：財務省「貿易統計」、FOB 価格

注：国内卸売価格は、日本食肉流通センター公表の首都圏の和牛「4」規格冷蔵ロインセット（ヒレ、リブロース、サーロイン）の年次価格の重量中央値。

### 3 和牛の輸出におけるロイン系の割合

直近3年において、牛肉輸出では、冷凍品の数量割合は概ね50%強で冷蔵品より多く、ロイン系部位では55%程度である。もし、冷凍品と冷蔵品の価格差を縮小する技術が進展すれば、輸出金額が増加することになる。

貿易統計において、牛肉の輸出が4部位に区分されたのは2017年からである。それ以降のロイン系部位の牛肉輸出に占める割合は、①数量ベースでは、冷蔵品で50%強、冷凍品で70%前後、②金額ベースでは、冷蔵品で65%前後、冷凍品で80%程度となっている。

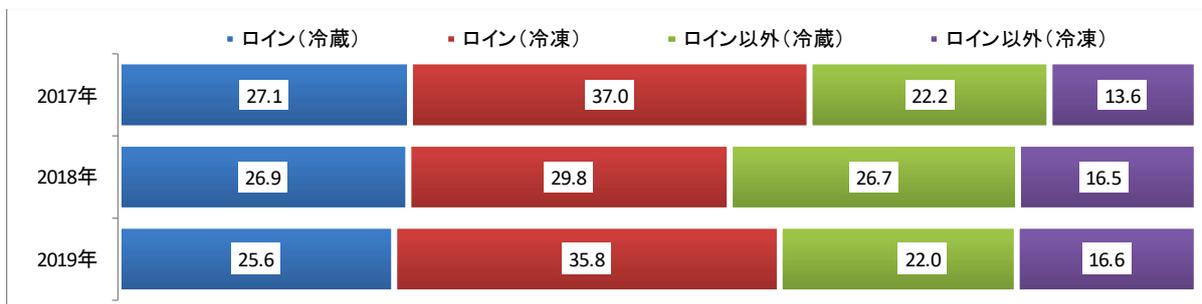
2019年の冷蔵品の輸出数量が、1位の台湾、2位の香港では、ロイン系部位の割合が30%、43%となっている。この2国でのロイン系以外の部位の消費形態が他国に応用できれば、ロイン系以外の部位の輸出増加が期待できるかもしれない。

輸出において、和牛肉が100%と仮定すると、2019年の和牛肉の国内生産量が約15万トン（部分肉ベース）に対して、輸出数量は4,300トンなので、国内生産量の3%程度である。

ロイン系の部位（ヒレ、リブロース、サーロイン）は、1頭から生産される割合は14%であるので、ロイン系の国内生産量は約21,000トンである。ロイン系の輸出数量は2,700トンなので、国内生産量の約13%を占めており、輸出が国内のロイン系部分肉市場の価格に影響していると考えられる。

図3 和牛の輸出におけるロイン系の割合

単位：%



資料：財務省「貿易統計」

